

第3回在シンガポール日本人公認会計士の会 定例研修会

SCS-Invictus 洞 大輔

今般、シンガポールで活動する日本人公認会計士の連携強化等を図るべく、令和元年7月1日(月)、シンガポール日本人会館にて英国エクスター大学国際法学教授の那須仁氏による講演後、「在シンガポール日本人公認会計士の会」定例懇親会が開催された。在住会員 20 名超の申し込みがあり、盛会裏に終えることができた。このような集まりがほとんどないことから、もっと頻度を上げて開催したいとの意見もあり、今後とも継続的に研修会や懇親会を積極的に開催していくことが確認された。

今回の在シンガポール日本人公認会計士の会講演会にあたっては、那須氏に「宇宙開発の規制と展望」と題して講演をいただいた。近年、宇宙ビジネスが非常に活発化しており、日本でも海外でも多くの宇宙ベンチャー企業が多額の資金調達を行い、堀江貴文氏など著名な方々も先頭に立って宇宙ビジネスに携わっている。一方で、宇宙に関する諸規制はまだ未知の領域にあり、その知見も乏しい。ビジネスあるところには必ず法律、会計、税務といった我々士業がかかわるソフトのインフラが必要になってくることから、今後さらなる盛り上がりを見せるであろう宇宙ビジネスが直面すると考えられる諸問題やリスク要因について公認会計士として知見を深める機会とするために、那須氏に宇宙開発についての現状の規制状況及びこれからの宇宙規制についてお話いただいた。

宇宙の規制については、1967 年～1979 年にかけて制定された宇宙5条約なるものをご説明いただき、宇宙空間や宇宙飛行士などの「宇宙」に関する条約については、多くの国が採択しているのに対して、1979 年に発行された「月その他の天体における国家活動を律する協定」については、ほとんどの国が採択しておらず、月に関してはほとんど規制がされていないとのことであった。宇宙の中でも身近な月の開発について、規制がないようなものとなっている現状について、参加者も驚きであったようだ。

また、宇宙ビジネスの可能性についてもご説明いただいた。サブオービタル飛行、小規模ロケットの発射、位置情報サービス、遠隔探査・画像サービス、通信サービス、および宇宙活動サポートサービスなどたくさんの事例が考えられ、人工的に流れ星をつくりだし流れ星を指定された時間に流したり、遺灰を宇宙空間に送り込んだりといったビジネスも現状、開発されているようであった。

今後の宇宙開発および、宇宙ビジネスの発展が見込まれ、我々がどのようにかかわっていくのかというところから、那須氏への質疑も活発に行われ、非常に興味深く有意義な時間となった。

在シンガポール日本人公認会計士の会は、「在外会員が情報交換を行うことや研修の受講は困難である」という課題解決にむけ、平成 29 年 8 月に設立された。以降、岡本ファンドによるシンガポール派遣研修や国際会計研究学会による研究のヒアリング協力や在星会員の親睦会などの活動を行っている。協会本部国際グループや東京会のご支援もあり、継続して活動を続けることができた。今後は現地会計士協会との関係や継続的に活動するための管理体制の構築、他国への横展開などが課題であると考えている。引き続き活動を続けていきたい。(事務局 洞、副島、安達)

以上